

# めぐみイエス・キリスト教会

2020年1月12日(日)第二主日礼拝  
週報「通算第489号」



## 2020年標題聖句

### 第I テサロニケ5章16節～18節

《いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。》

|           |       |               |
|-----------|-------|---------------|
| 第一礼拝      | 毎週日曜日 | 午前10時～11時     |
| 第二礼拝      | 毎週日曜日 | 午後6時～7時       |
| 聖書の学びと祈り会 | 毎週水曜日 | 午後6時15分～7時15分 |

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2020年1月12日 第二主日礼拝

第一礼拝 午前10時 第二礼拝 午後6時

司会 鈴木 竜実牧師 奏楽 佐野 みゆきさん

### ◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌183「悩める人々」 p. 266

【交読文】 No.47 出エジプト記第20章 p. 916

【賛美Ⅱ】 新聖歌282「見ゆるところによらず」 p. 450

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.11 「ラザロ」

【聖書朗読】 第Ⅰテサロニケ5章16節～18節

【祈 禱】

【説 教】 《2020年標題聖句そのⅡ》 鈴木 竜実 牧師

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※聖書箇所「第Ⅰテサロニケ5章16節～18節(新約p. 367下段)

5:16 いつも喜んでいなさい。

5:17 絶えず祈りなさい。

5:18 すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。

## ●ポイント1. イエス様の祈りとは？

### ※マルコの福音書1章35節および～6章46節「朝・夕方」(新約p.60・p.71)

1:35 さて、イエスは、朝早くまだ暗いうちに起きて、寂しい所へ出て行き、そこで祈っておられた。

6:46 それから、群衆に別れ、祈るために、そこを去って山のほうに向かわれた。

## ●ポイント2. アダムとエバの場合は？

### ※創世記3章8節～13節「エデンの園において」 (旧約p.4上段)

## ●ポイント3. 「祈り」における3つのパターンとは？

### ※マタイの福音書6章6節「父なる神様への祈り」 (新約p.8下段)

6:6「あなたは、祈る時には自分の奥まった部屋にはいりなさい。そして、戸をしめて、隠れた所におられるあなたの父に祈りなさい。そうすれば、隠れた所で見ておられるあなたの父が、あなたに報いて下さいます。」

### ※ヤコブへの手紙5章15節～16節「取りなしの祈り」 (新約p.413下段)

5:15 信仰による祈りは、病む人を回復させます。主はその人を立たせて下さいます。また、もしその人が罪を犯していたなら、その罪は赦されます。

5:16 ですから、あなたがたは、互いに罪を言い表わし、互いの為に祈りなさい。いやされる為です。義人の祈りは働くと、大きな力があります。

### ※ヘブル人の手紙13章15節「賛美の祈り」 (新約p.406下段)

13:15 ですから、私たちはキリストを通して、賛美のいけにえ、すなわち御名をたたえるくちびるの果実を、神に絶えずささげようではありませんか。

### ※コロサイ人の手紙4章2節「パウロの勧め」 (新約p.361下段)

4:2 目をさまして、感謝をもって、たゆみなく祈りなさい。

## ◎先週のメッセージの概要【2020年標題聖句その I (16節)】

《明けましておめでとうございます。さて今年の『めぐみイエス・キリスト教会』の標題聖句は、第 I テサロニケ5章16節から18節となります。今日は、5章16節「いつも喜んでいなさい」について、共に考えて見ましょう。

まず「喜びの手紙」と言われています「ピリピ人への手紙」には「喜ぶ」という文字が16回出て来ます。しかもこの手紙は、ローマの獄中において書かれたものなのです。その中で、パウロ自身このように勧めています。『いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。』と。

このみ言葉の方が、パウロが伝えたい真意がはっきりとします。ただ単に「いつも喜んでいなさい」では、私たちは喜び続けることなど、到底不可能だからです。なぜなら私たちは、みな感情を持っているからです。

それだからこそ、「主にあって」が最も重要なのです。主イエス・キリストにある「喜び」こそが本物です。この「喜び」こそが、感情や周りの状況に左右されない、真の「喜び」なのです。それでは、「主にある喜び」とは、具体的にはどのようなものなのでしょう。そのことを考えて行きましょう。

イエス様は、最後の晩餐の後に、弟子たちにこう教えられました。「私はもう一度あなた方に会います。そうすれば、あなた方の心は喜びに満たされます。そして、その喜びをあなた方から奪い去る者はありません。」

主イエス様こそ神の御子、真の救い主であられ、創造主なる神様、そのことを弟子たちが、本当に知った時に、「喜び」がやって来たのです。

それは、十字架につけられ殺されはしましたが、三日目によみがえられ、生きておられるイエス様にお会いした時です。主が共にいて下さる喜び、その喜びこそだけが本物の喜びであるのです。そしてそれは、聖霊によって与えられるものでもあり、上から降り注がれるものなのです。

しかし私たちの敵である悪魔は、私たちのこの「喜び」を、何としても奪おうとして、攻撃して来ます。それは人を「裁く」ことによってです。イエス様だけが唯一の裁き主であられます。私たちは委ねるべきです。》

## ◎お知らせ

※次回礼拝は1月19日(日)です。午後礼拝は、聖書キリスト教会大会の為にお休みします。次回「聖書の学びと祈り会」は1月15日(水)です。